

授業科目 口腔外科学

【担当教員名】 大橋 靖・今井信行	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	前期（後半）	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

<概要>

臨床歯科医学に続き、主として口腔・顎・顔面に発生する疾患の病態・診断・治療・予後・予防・鑑別診断などについて学習する。構音障害II(器質)、嚥下・摂食障害の講義とは関連が深い。

<一般目標：G I O>

言語障害と関連の深い口腔・顎・顔面の形態・機能・疾患について理解する。

<行動目標：S B O>

1. 顔面頸部の疾患について説明できる
2. 口腔軟組織の疾患について説明できる。
3. 顎と顎関節の疾患について説明できる。
4. 口腔・顎・顔面の機能障害の診断について説明できる。
5. 口腔・顎・顔面の機能障害の治療について説明できる。
6. 摂食・嚥下障害の診断治療について説明できる。

回数	授業計画又は学習の主題		SB0
			番号 学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	顔面・頸部の疾患	軟部組織、大唾液腺、神経系、心因性、リンパ系	講義（大橋）
2	口腔軟組織の疾患	先天異常、発育異常、外傷、口腔粘膜疾患、感染症、嚢胞、腫瘍	講義（大橋）
3	顎と顎関節の疾患 1	先天異常、発育異常、外傷、感染症、嚢胞、腫瘍、顎関節症、顎関節強直症	講義（大橋）
4	顎と顎関節の疾患 2	嚢胞、腫瘍、顎関節症、顎関節強直症	講義（大橋）
5	口腔・顎・顔面の機能障害の診断と治療 1	言語機能の障害の診断、咀嚼機能の障害の診断	講義（大橋）
6	口腔・顎・顔面の機能障害の診断と治療 2	言語機能の障害の治療、咀嚼機能の障害の治療、歯科を中心とした総合治療	講義（大橋）
7	口腔・顎・顔面の機能障害の診断と治療 3	摂食・嚥下障害の治療	講義（今井）

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	言語聴覚士のための基礎知識			
	臨床歯科医学・口腔外科学	夏目長門編	医学書院	2006年発行 4200円
参考書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学	道 健一編	医歯薬出版	2000年発行 4000円
	最新口腔外科学：第4版	榎本昭二他編	医歯薬出版	1999年発行 21000円
その他の資料	プリントを配布する			

【評価方法】 出席状況と定期試験から評価する	【履修上の留意点】 前半に講義される臨床歯科医学と合わせて完結する
---------------------------	--------------------------------------